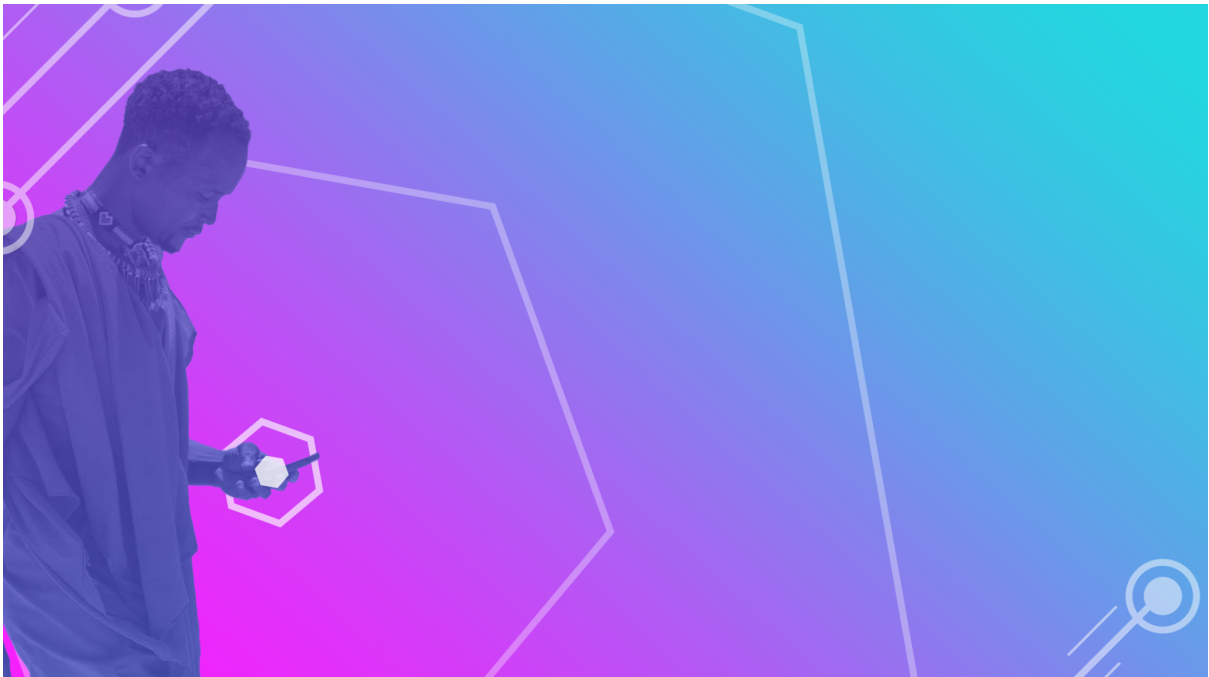


Digital health

デジタルヘルス勉強会運営報告書

2021年9月-11月



目次

勉強会概要	3
勉強会の概要	3
勉強会の到達目標	3
講演者一覧	4
勉強会日程一覧	4
勉強会報告	5
「長崎離島におけるMixed Reality(複合現実)を用いた遠隔医療システム」グループサマリー	5
「途上国医療のデジタル化及びパレスチナにおける日本の支援」グループサマリー	5
「フィリピンにおける狂犬病対策」グループサマリー	6
謝辞	7

デジタルヘルス担当班 編

勉強会運営責任者/フィリピン狂犬病対策担当

轟木亮太 大分大学医学部医学科

吉原七海 長崎大学医学部医学科

長崎離島担当

山崎里紗 長崎大学医学部医学科

上杉優佳 東京大学医学部医学科

パレスチナ母子手帳担当

城戸初音 熊本大学医学部医学科

松岡明里 長崎大学医学部医学科

本報告書における発表内容は、その責任と著作権を日本熱帯医学会学生会が所有します。その内容のすべて、あるいは一部を、無断で複製・転載すること、インターネット等で掲載することは、理由の如何を問わず権利の侵害となります。あらかじめご了承ください。

勉強会概要

勉強会の概要

世界での新型コロナウイルス感染症の蔓延により、人と人とが顔を合わせて交流することが制限される中、代替手段としてのオンライン技術の発達が急速に進んでいる。医学や疫学の分野でも、これらの技術は今後ますます導入されていけよう。医療に携わる学生にとって、オンライン技術や最新のテクノロジーを用いた健康管理、いわゆるデジタルヘルスについて最新の情報に触れることは、今後の自身の将来を考える上で大変有意義な勉強会となるはずだと考えた。本タームでは、長崎五島列島における遠隔診療、パレスチナ難民キャンプにおける電子母子手帳の導入、フィリピンにおけるアプリケーションを用いた狂犬病対策という、医療リソースの乏しい地域における医療課題の解決方法と、その解決のためにデジタルヘルスが活用された事例を紹介しながら、デジタルヘルスの概観を学んだ。またWeek6は第62回日本熱帯医学会大会シンポジウム企画と同時開催という形で行われた。学生がデジタルツールを用いた新たな狂犬病対策を提案し、それに対し専門家とディスカッションを交わすという、双方向的な勉強会となった。これによりデジタル化の潮流の中で、未来の医学を担っていく我々学生が今後どのように対応していくべきなのか、学生自身が考えられる機会となった勉強会であったらう。

勉強会の到達目標

1. デジタルヘルスの概念を学ぶ

新型コロナウイルス感染症の蔓延と共に、デジタルヘルス分野の注目度が増している。J-Tropsの学生が将来医療従事者として働く頃には、多くのオンライン技術が導入されていることだろう。まずは「デジタルヘルスとは何者なのか」、具体的な3つの事例を紹介することで、デジタルヘルスの概念に触れる。

2. デジタルヘルスの重要性を理解する

先進国はもちろんのこと、東南アジア、アフリカ地域などのいわゆる「発展途上国」と呼ばれる地域での成長がめざましい分野である。医療アクセスへの不便性や、医療資源の不足を補うものとしての役割を果たしているのだ。J-Tropsの学生は、将来的に発展途上地域での仕事を希望する者が多いため、デジタルヘルス分野への理解が不可欠であるだろう。

3. ディスカッションの経験を得る

我々の勉強会は昨年1年間は主に学生勉強会と専門家講演の2本柱で行ってきた。そのなかで、専門家の先生方と学生が直接交流する機会というのは、なかなか設けることができていなかった。今回は学生が立案した企画に対して、先生方から評価・フィードバックを受け、さらにはディスカッションを行い、双方向性のあるものを目指した。第一線で活躍されている先生方と意見交換を行うことは、学生の学びの意欲を向上させるものだと考える。

講演者一覧

長崎離島における**Mixed Reality**を用いた遠隔医療システム
長崎大学大学院医歯薬総合研究科 離島へき地医療学講座(離島医療研究所)助教
野中文陽先生

途上国医療のデジタル化及びパレスチナにおける日本の支援
国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA) 保健局長 清田明宏先生

フィリピンにおける狂犬病対策～アプリケーション開発からその先へ～
大分大学医学部微生物学講座教授 西園晃先生
大分大学医学部微生物学講座講師 齊藤信夫先生
WHO西太平洋地域事務局専門官 矢島綾先生
長崎大学熱帯医学研究所/長崎大学大学院 熱帯医学・グローバルヘルス研究科助教 吉岡浩
太先生

勉強会日程一覧

9/15 20:00~ 学生勉強会
9/24 20:00~ 専門家講演会

10/6 20:00~ 学生勉強会
10/15 20:00~ 専門家講演会

10/25 20:00~21:00 学生勉強会
11/3 13:30~15:00 第62回日本熱帯医学会大会シンポジウム企画

勉強会報告

「長崎離島におけるMixed Reality(複合現実)を用いた遠隔医療システム」グループサマリー

2021-2022の第1ターム「医療過疎地域におけるテクノロジーの活用」における、1つ目のサブテーマである「長崎離島におけるMixed Reality(複合現実)を用いた遠隔医療システム」に関して2回に渡る勉強会を行いました。のちに続くパレスチナ、フィリピンをフィールドとした2つのサブテーマに先立ち、デジタルヘルスに関する総論や、我々にとって身近な日本の医療現場においてテクノロジーを導入する背景や問題点を取り上げ、勉強会と講演会を開催いたしました。

9月15日(水)に行われたWeek1の学生勉強会では、「デジタルヘルスとは何か」「オンライン診療と遠隔診療の違い」「VR、AR、MR、SRとは?」「医療で用いられるARに関するSystematic Reviewの紹介」そして次回のご講演に向けたイントロダクションとして「長崎大学の五島列島における取り組み」について紹介しました。40名が参加した学生勉強会後の質疑応答では、病院実習を行っている医療系学生の視点を含めて活発な議論が交わされました。

9月24日(金)に行われたWeek2の専門家ご講演では、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科離島へき地医療学講座(離島医療研究所)助教でいらっしゃいます野中文陽先生にお越しいただきました。アレルギー・リウマチ内科、及び糖尿病内科専門医としての専門的なご意見も交え、NURAS(長崎大学関節リウマチ遠隔医療システム)の開発や、離島医療研究所で行われている、テクノロジーを活用した実証実験や地域疫学研究についてご紹介いただきました。

NURASやドローンを用いた医療物資の運搬など、テクノロジーを用いた医療技術の開発のお話は、その目覚ましい発展に我々学生も驚くとともに、今後の問題点を考える貴重な機会となりました。また地域疫学研究については、医師だけでなく多職種で連携することの重要性や、1つの疾患に特化せず、ポリファーマシーや生活管理といった環境要因や分野横断的な視点の大切さを知ることができました。ご講演の最後には、臨床の現場で働いていらっしゃるご経験から、具体的な診療内容や島での暮らしのエピソードなどもご紹介いただき、様々な疾患と向き合いながら医師としての生活を楽しんでいらっしゃる様子が臨場感たっぷりに伝わってくる大変刺激的な講演会となりました。

文責: 上杉優佳・山崎里紗

「途上国医療のデジタル化及びパレスチナにおける日本の支援」グループサマリー

2021-2022の第1ターム「医療過疎地域におけるテクノロジーの活用」における、2つ目のサブテーマである「途上国医療のデジタル化及びパレスチナにおける日本の支援」に関して2回に渡る勉強会を行いました。医療過疎地のうち主に途上国に焦点を当て、途上国におけるデジタルヘルスの具体例や電子母子保健手帳の導入が進んでいるパレスチナについて勉強会とご講演を開催しました。

10月6日(水)に行われたWeek3の学生勉強会では、途上国におけるデジタルヘルスを理解するために、ブータン・ウガンダ・ケニアなど実際にデジタルヘルスを導入している国の具体例を挙げながら途上国でデジタルヘルスがどのように使われているのか、またその利点と問題点につ

いて学ぶことができました。そして清田先生のご講演に向けたイントロダクションとして「パレスチナ問題」「国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)の活動」「パレスチナにおける電子母子保健手帳」を取上げ、最大の難民問題であるパレスチナ問題を歴史的背景から学ぶとともにパレスチナで活動しているUNRWAが進めている医療の電子化について理解を深めることができました。

10月15日(金)に行われたWeek4の専門家のご講演では、国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)保健局長 清田明宏先生にお越しいただきました。パレスチナで先生方が尽力されている家庭医の仕組みやHER(医療情報連携ネットワーク)などをご紹介いただきました。特に、パレスチナ全体で統合された電子カルテ、専門の医師が行うtelemedicine(TM:遠隔医療)、電子版母子保健手帳などの医療サービスを統合されたお話は、先進国である日本でも取り入れが議論されているにも関わらずなかなか導入が進んでいないのが現状で、パレスチナから学ぶべき点も多くあると感じました。また、国連で働かれている先生ご自身のご経験から、国連でのキャリアや改革を進めるうえで重要なことをご教授いただきました。今後国際保健分野や海外での医療活動を目指している弊団体の学生には非常に示唆に富んだご講演となりました。

次回のWeek5とWeek6は「フィリピンにおける狂犬病対策～アプリケーション開発からその先へ～」をタイトルとし、勉強会を進めてまいります。Week6の講演会は日本熱帯医学会大会学生シンポジウムとして、大分大学医学部微生物学講座教授 西園晃先生、同講師齊藤信夫先生、WHO西太平洋事務局 専門官 矢島綾先生、長崎大学熱帯医学研究所助教 吉岡浩太先生をお迎えし、フィリピンをフィールドとした狂犬病対策のデジタル化について、学生と先生とのディスカッションも交えながら学んでいきます。

日本熱帯医学会学生会の活動に興味のある方は、ぜひ一度勉強会にお越しください。一緒に活動できることを楽しみにしています。

文責:松岡明里・城戸初音

「フィリピンにおける狂犬病対策」グループサマリー

2021-2022の第1ターム「医療過疎地域におけるテクノロジーの活用」における3つ目のサブテーマ、「大学生と専門家で考える、フィリピンにおける狂犬病対策～アプリケーション開発からその先へ～」に関して、勉強会とシンポジウムを行いました。

今回Week6の勉強会では、第62回日本熱帯医学会大会学生会シンポジウム企画の一環として大分大学医学部微生物学講座が取り組んでいる『フィリピンにおける狂犬病対策』をテーマに、デジタルヘルスの観点から学生が対策を考えて、専門家の先生方と共にディスカッションを行いました。

Week6の事前勉強として、Week5の学生勉強会では、狂犬病ウイルスやその病態、狂犬病そのものの基礎知識の整理をし、フィリピンでの狂犬病対策の問題点や、対策の要を学びました。対策の要は、「ヒトの狂犬病を予防」「イヌの狂犬病を予防」「サーベイランスの強化」「狂犬病教育の推進」の4つであり、それらに焦点を当てる重要性を認識しました。この対策の焦点をもとに学生が主体となって今後の狂犬病対策について考える時間を設けました。

11月3日(水・祝)に行われたWeek6の学会シンポジウム企画は2部構成で行われました。前半は、大分大学医学部微生物学講座の教授の西園晃先生より、狂犬病研究や概論についてのお話をいただきました。また、同講座の講師 齊藤信夫先生からは、フィリピンで応用研究されている狂犬病封じ込めパッケージについてご紹介いただきました。

後半は、J-Tropsの有志の学生が考えた次世代のデジタルツールを用いた狂犬病対策のプレゼンテーションを2グループに分けて行い、学生からの提案に対して専門家の先生方からフィードバックをいただきながら、ディスカッションを交わしました。専門家の先生として、本企画の前半にご講演いただいた西園先生、齊藤先生に加え、WHO西太平洋地域事務局専門官の矢島綾先生と、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科助教の吉岡浩太先生のお二方にもご参加いただきました。プレゼンターの学生たちはWeek5で学んだことを活かし、A班は「正しく恐れて楽しく学ぶ狂犬病e-Learning」、B班は「顔認証システムによる市民一体型のDog's Rally」をテーマに、プレゼンテーションを行いました。学生ならではの新鮮な視点から考察されていると好評をいただいた一方で、フィリピンの実情を反映できていないなどのご指摘をいただき、対策を考える際には実際に現地へ赴きその地のニーズを理解すべきであると、重要性を認識することができました。

文責：吉原七海・轟木亮太

謝辞

最後になりましたが、ご多忙の折にご協力いただきました、
長崎大学大学院医歯薬総合研究科 離島へき地医療学講座(離島医療研究所)助教 野中文陽先生
国連パレスチナ難民救済事業(UNRWA)保健局長 清田明宏先生
大分大学医学部微生物学講座教授 西園晃先生
大分大学医学部微生物学講座講師 齊藤信夫先生
WHO西太平洋地域事務局専門官 矢島綾先生
長崎大学熱帯医学研究所/長崎大学大学院 熱帯医学・グローバルヘルス研究科助教 吉岡浩太先生
以上の先生方に心から御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。